

校訓	真善美	平成30年度学校だより	発行日	平成31年3月12日
教育目標	自主、自立、感謝の精神を抱き、 未来を拓く生徒の育成 —豊かな心、確かな学力、健やかな体を育てる—	「荒中だより」 第37号	発行者	伊丹市立荒牧中学校 校長 難波 重之

感動的な卒業証書授与式でした

3月8日(金)、春の息吹を感じる中、第38回卒業証書授与式が挙行されました。保護者の皆様をはじめ、阪神教育事務所、伊丹市教育委員会、地域の皆様(学校運営協議会委員、少年進路相談員、自治会関係、少年補導委員、民生児童委員など)、校区内の幼稚園・小学校園長などの先生方、高等学校長などの先生方、各PTA関係の方々など多数のご来賓に見守っていただきながら、^{おごそ}厳かで感動的な卒業式となりました。ご出席くださいました皆様には、ご多用の中、本当にありがとうございました。



238名の卒業生からの記念品として、テントを2張いただき



ました。ワンタッチで開くことができる軽く最新式のもんです。体育大会などの行事で末永く大切にに使わせていただきます。ありがとうございました。

1、2年生の皆さんにとっては、卒業生はいつも手本となる頼もしい先輩だったと思います。これからは皆さんの

番です。皆さんも**お互いに信頼し合える自立した集団に成長してください。**

3年生で学ぶ^{ろんご}論語には、「**学びて思はざれば すなわち罔(くら)し 思ひて学ばざれば すなわち殆(あや)ふし**」とあります。この一節は、「学ぶだけで考えなければ本当の理解に到達しない。それとは逆に、考えるだけで学ばなければ独断に^{おちい}陥る危険がある」という意味です。皆さんは中学校を卒業した後、高等学校などの上級学校で専門性を高め、社会に出ていくことになります。その過程で、読書などによって広い知識と深い教養を身につけてください。また、常に^{けんきょ}謙虚に自らを振り返ったり、人の助言に耳を傾けたりしながら自分の中で考えを深め、ぶれない軸をつ

くってください。そして、いろいろなことに**失敗を恐れず挫折に怯**^{させつ ひる}**まず挑戦し続けてほしい**と思います。86歳にしてプロスキーヤーであり登山家でもある三浦雄一郎さんは、今年1月、目指していた南米の最高峰アコンカグアへの登頂をドクターストップにより断念されました。その三浦さんは、「目標を定めても、その通りいかないことがある。その時には、次はこの方法でやってみよう、この山へ行ってみようと夢のオプションを持てばいいのです。できない理由を考えるより、どうしたらできるようになるかを工夫することが大事です。**挫折は挑戦の始まりだから**」とおっしゃっています。毎日**は失敗の連続**ですが、『失敗』を『成功のための学び』とするために、どうすれば良かったのかをよく考え、次のチャレンジをすることが大事です。



また論語では、「**性、相近し、習い、相遠し**」^{せい あい なら}ともあります。この一節は、人は生まれで将来が決まるのではなく、自分の努力によって切り拓かれるものだという意味です。「昨日の自分」を今日は少しでも超えていく、目標に向かって、「**自分への挑戦を続ける**」人生であってください。4月には、2年生の皆さんは『最高学年』になり、1年生の皆さんは『中堅学年』となり学校を中心になります。自分の夢や目標に向かって、前を向いて一歩ずつ歩みましょう。

伊丹市児童生徒保健体育賞

【3 年】佐々木謙也、長谷川耀大、三田隼矢、山本健太、中島愛斗、岩下 誠、福田雄大、松浦孝太、
小西拓斗、中原智哉、大野大地、景山雄貴、斉藤太輝、小山千夏、西崎来実、井上 空、
河井美結、殿岡 諒、宮川夏生、毛利樹羅、矢野愛実

【2 年】浅岡優志、中尾浩太、西田隼太、吉田琉成、辻 翔、長岡哲平、
安達琉晴、小川碧一、黒田 遼、西村俊亮、富田理子、前田 萌



男子卓球部 ☆第11回月隄杯卓球大会 (3/2 加古川市日岡山体育館)

男子シングルスAの部 2位 松山翔豪 3位 村上彪稀、田口陽大

☆第44回明石近郊中学生卓球大会 (3/3 明石市立中央体育館)

男子団体1部 優勝 (村上、狩山、松山、田口、宇野、山内、小川)

自信と誇りを持てる学校を創ろう!!